

入場無料
申込不要

“みんなからてみない”
って思ってくれない社会って
イヤだ!“こらしさ”による
死にたいほどのつらさについて
みんなでいろいろ考える
シンポジウム

2017年

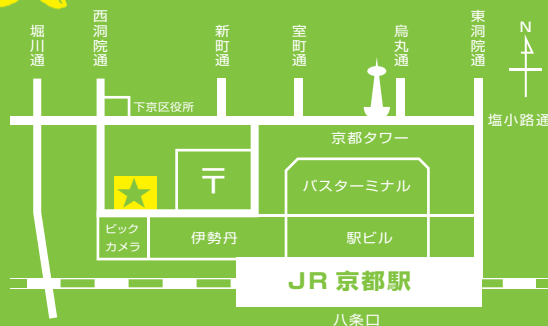
12月23日[土・祝] 13:00~16:00

キャンパスプラザ京都4階第2講義室

登壇者 | 雨宮処凛 (作家・活動家) 杉田俊介 (批評家)

竹本了悟 (Sotto) 玉木達也 (毎日新聞編集委員)

主催・お問合わせ先：特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター ☎075-365-1600 ✉so-dan@kyoto-jsc.jp
後援：京都府、京都市、毎日新聞



親らしさ 男らしさ 社会人らしさ 自分らしさ 女らしさ 子どもらしさ 大人らしさ 学生らしさ

詩人・金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい。」とのメッセージには、私たちの心をほっとさせてくれるあたたかさを感じます。とくに死にたい気持ちを抱えて、「自分なんて…」と自身の事を否定的にしか思えない時は、まるごと受け入れてくれることに救われます。今の私たちの社会には、こうしたまるごと受け入れてもらえる場所がどれほどあるでしょうか。むしろ押し付けられるようにして「～らしく」あることが求められることが多いように思います。

「～らしさ」という表現は、張り合いになる時もありますが、反対に私たちを苦しめ、生きづらくすることもあります。自分らしさ、女らしさ、男らしさ、大人らしさ。そんな想いに縛られ応えようとすると、本音を誰にも話せなくなり、よけいに生きづらくなってしまいます。

本シンポジウムでは「～らしさ」に焦点をあて、生きづらさや死にたい気持ちについて向き合い続けてきた登壇者と一緒にとことん考えます。

このシンポジウムは京都府自殺対策事業補助金を受けて開催します。



登壇者（敬称略）



雨宮処凛

(作家・活動家)

1975年、北海道生まれ。2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』でデビュー。以来、「生きづらさ」についての著作を発表する一方、イラクや北朝鮮への渡航を重ねる。2006年からは新自由主義のもと、不安定さを強いられる人々「プレカリアート」問題に取り組み、取材、執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。311以降は脱原発運動にも取り組む。2007年に出版した『生きさせろ！ 難民化する若者たち』はJCJ賞（日本ジャーナリスト会議賞）を受賞。



杉田俊介

(批評家)

1975年、神奈川県川崎市生まれ。20代後半から地元川崎市で障害者福祉のNPOに10年ほど勤務。現在はフリー。著書に『フリーターにとって「自由」とは何か』、『宮崎駿論』等。近年は『非モテの品格 男にとって弱さとは何か』、『長瀬剛論』、立岩真也氏との共著『相模原障害者殺傷事件』等を通して、男性問題について論じている。



竹本了悟

(Sotto)

1977年広島生まれ。専門は真宗学。防衛大学校卒業後、海上自衛隊に入隊するが僧侶となるため退官。龍谷大学大学院で真宗学を学ぶ。現在は浄土真宗本願寺派総合研究所研究員。2010年に京都自死・自殺相談センター Sotto を10名の仲間と設立、代表を務めている。



玉木達也

進行役

(毎日新聞編集委員)

1990年4月、毎日新聞入社。富山、京都支局、大阪社会部などを経て2004年4月から3年間、東京社会部で厚生労働省を担当。自殺問題に積極的に取り組み、自殺対策基本法（2006年6月に成立）の制定に向け、キャンペーン的な報道を展開した。2017年4月から大阪本社編集局編集委員。

タイムテーブル

- 13:00 開場
- 13:30 開始
(途中に休憩あり)
- 16:00 終了
- 16:00 ボランティア説明会



当日は、来場の皆さまが対話へ参加できるように、随時、質問用紙を受け付け、会場のスクリーンにはツイッターをリアルタイムで表示します。そして、その内容を登壇者間の対話の中に取り込むことで、会場全体で一緒に考える機会にしたいと考えています。ツイッターのハッシュタグは「#Sotto_sympto」で、ツイートしていただくことで当日の対話に、今からご参加いただけます。

案内

2018(平成30)年度 第10期ボランティア募集

京都自死・自殺相談センターで共に活動してくれるボランティアを募集しています。

Sottoは自死の苦悩を抱えたときの心の居場所をつくる団体です。

自死念慮者への電話やメール相談窓口、大切な人を自死で亡くした方への語りあう会の開催、一人でも多くの方への自死に関する情報を届ける発信の活動を柱としています。